

本誌を読まれる人のために

- 一 本誌は「歴史・行政編」と「自然編」の全二巻とし、「歴史・行政編」は縦書き、「自然編」は横書きとした。本来ならばどちらかに統一すべきであるが、「自然編」は図表との関係上、横書きにした。
- 二 本誌の構成は、「歴史・行政編」を（歴史）（行政）（産業・経済）（教育）（民俗・文化遺産・宗教）（人物）「自然編」を（自然環境）（動物）（植物）とした。
- 三 本文は常体の口語文とし、常用漢字・現代仮名づかいを原則とし、読みの困難なものには、ふり仮名をつけた。
- 四 執筆に際して活用した資料名は、その都度掲載した。
- 五 人物名については、敬称は略させていただいた。
- 六 本誌の記載事項は平成八年八月までとした。
- 七 本文中、歴史的用語として差別用語を用いた部分がある。これは封建支配の事実を正しく理解し、あるべからざる不当な身分差別制度の認識に資するためである。

目次

発刊のことば

本誌を読まれる人のために

第一編 歴史

一 古代縄文時代・弥生時代と本村人	3
二年代表	6
三 新宮村領主藩主歴代 <small>（自天正十二年 至明治四年）</small> 一五八五—一八七一—二八七年間	18
四 南海道	37
五 江戸幕府の参勤交代制度と土佐藩	41
六 農民に対する幕府のお触書	55
七 上山村年貢小割	61
八 阿波白地、田井庄の荘園	71
九 伊能忠敬四国測量日記	73
十 新宮村の堂宮	78

十一	新宮村の寺々	103
十二	熊野信仰と伊予新宮	124
十三	神社本庁と村内神社	155
十四	西之庄大西神社 鐘踊り	178
十五	江戸時代より近代までの村の産業	180
十六	新宮村茶及び土佐茶、塩の道	210
十七	学制前の村の教育	219
十八	村の人口流動の歴史	224
十九	新宮村の巻物	225
二十	新宮村の木地師	232
二十一	新宮村の方言	264
	あとがき	284

第二編 行政

第一章	明治維新後の変遷	287
第一節	明治初期の行政	287
第二節	「町村制」以後の村政	306
第三節	新立村	311

第四節	上山村	339
第二章	新生新宮村誕生と村政	371
第一節	上山・新立両村の合併	371
第二節	新宮村の執行機関	403
第三節	基本構想と振興計画	435
第四節	新宮村章	457
第五節	村木・村花	457
第六節	行政機構	458
第七節	議会	472
第三章	選挙	486
第一節	選挙制度の変遷	486
第二節	各種選挙の執行状況	496
第三節	宇摩郡選出県議会議員	507
第四章	人口の推移と動態	509
第一節	合併以後の人口推移と動態	509
第二節	人口構成	515
第三節	人口変動の要因と現象	526

第五章 治安と防災	530
第一節 治安	530
第二節 消防	540
第三節 災害	553
第六章 保健・衛生	560
第一節 衛生行政の沿革	560
第二節 法定伝染病	565
第三節 成人病と対策	571
第四節 保健衛生施設	577
第五節 医療施設	579
第六節 国民健康保険	584
第七節 環境衛生	594
第七章 社会福祉	602
第一節 民生委員制度	602
第二節 福祉事業	606
第三節 民間の社会福祉活動	619
第四節 国民年金制度	626
第五節 同和対策	630
第六節 住宅対策	632
第八章 土木・治山・治水	635
第一節 道路と橋梁	635
第二節 治山・治水	658
第九章 財政	672
第一節 税制度の変遷	672
第二節 新宮村の財政	685
第十章 兵事	718
第一節 徴兵制度	718
第二節 事変と戦争	721
第三節 従軍者と戦没者	725
第四節 銃後の生活	737
第十一章 広報と自治会	746
第一節 広報	746
第二節 自治会	750

第三編 産業・経済

第一章 農業

- 第一節 農業の沿革と新宮村……………755
- 第二節 明治から昭和初期までの農業……………755
- 第三節 昭和後期の農業……………758
- 第四節 戦後の農地改革……………770
- 第五節 農業振興事業……………773
- 第六節 新宮村の基幹作物……………776
- 第七節 農業団体……………788
- 第八節 土地改良区と事業……………821

第二章 林業と漁業

- 第一節 林業の概要……………846
- 第二節 戦前の林業……………846
- 第三節 戦後の林業……………847
- 第四節 森林組合……………854
- 第五節 漁業……………867

第三章 畜産

- 第一節 農耕と一体化した和牛……………873
- 第二節 塩塚牧野改良と酪農……………874
- 第三節 昭和後期の畜産……………884

第四章 地籍調査

第五章 商工業と鉱業

- 第一節 明治以降の商工業……………892
- 第二節 手漉き和紙……………900
- 第三節 鉱業……………907
- 第四節 発電……………918

第六章 交通・通信・電気

- 第一節 交通・運輸……………924
- 第二節 交通新時代……………936
- 第三節 通信と放送……………950
- 第四節 電気……………958

第七章 観光

- 第一節 名所・旧跡……………960

第二節 観光行事	969
第三節 名物・名産	972
第四節 観光施設及び推進機関	973

第四編 教 育

第一章 藩制時代の教育	977
第二章 明治以降の教育	980
第一節 教育制度の沿革	980
第二節 戦後教育	1009
第三節 村内の学校	1035
第四節 育英制度	1104
第三章 教育行政	1106
第一節 明治・大正の教育行政	1106
第二節 戦後の教育行政	1110
第四章 社会教育	1115
第一節 戦前の社会教育	1115
第二節 戦後の社会教育	1118

第三節 社会教育施設	1122
第四節 社会教育団体	1125

第五編 民俗・文化遺産・宗教

第一章 民 俗	1137
第一節 村落組織	1137
第二節 人生儀礼	1140
第三節 年中行事	1145
第四節 衣食住	1156
第五節 民 話	1174
第六節 民 謡	1194
第七節 子供の遊び	1205
第八節 農 具	1214
第九節 新宮村の地名	1217
第十節 ことわざ	1224
第十一節 民俗芸能	1226
第二章 文化遺産	1239
第一節 文化財保護	1239

第二節	指定文化財	1242
第三節	未指定文化財	1259
第四節	文学碑・顕彰碑	1260
第三章	宗 教	1269
第一節	神社神道	1269
第二節	仏 教	1270
第三節	教派神道・その他	1272

第六編 人 物

石川重治郎	1279
石川眞雄	1280
片桐 茂	1281
生瑞千夏	1282
深川正一郎	1288
藤井芳洲	1292
藤原五郎平	1295
脇 久五郎	1296

年 表	1298
-----	------

あとがき
 参考文献・資料
 村誌編纂委員